

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Uプロセッション (谷・晃寛・正岡・早川)				公表日	2026年 3月 13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		運動のレベルなどに応じてスペースを分ける等の工夫をしている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		常勤職員だけでなく、パート職員やサポーターの協力も得ている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		車いすユーザーなど身体障害者に向けたエレベーターがある		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		定期的な清掃を行い、心地よい環境を整備するよう努力している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		体育館、遊戯室だけでなく、お話し部屋なども活用し、その日のお子様の体調や様子に合わせてクールダウン、取り出しなどで個別活動の場所として活用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	4		定期的に行うミーティングで行っている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者向けだけでなく、児童にも希望などを聞いて業務改善や活動につなげている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		定期的開催するミーティングで行い、法人内の別事業所も交えた全体ミーティングでも業務改善につなげている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		第三者委員は設けていないが、保護者からのご意見も含め事業所外からのお声をより良い活動のために大切にしている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		代表理事による勉強会や外部講師を招いた研修会を行っている		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		月間の活動計画を公表し、運動や生活行動など幅広く活動をプログラムしている		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		定期的なモニタリングで子ども及び保護者のニーズを把握し、放課後等デイサービス計画に反映している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		児童発達支援管理責任者、管理者、指導員などの立場にとらわれずに共通理解を築くよう努めている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		児童発達支援管理責任者から随時個別支援計画が共有され、それに沿った支援を行っている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		活動の中で子どもの言動などに注意し、状況を把握するよう努めている。併せて発達検査の結果なども考慮している		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		お子様に併せてオーダーメイド型の支援を心がけて行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		月1回月間のスケジュールを決めるためにミーティングを行う。その際に児の希望なども出し合いながら立案している。		

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		基本的に同じものが続かないよう留意しつつ、あえて継続的に行って技術の向上などをわかりやすくする取り組みも併せて行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		運動の習熟度、周囲との関係性を考慮しながら集団活動と個別活動を使い分け、組み合わせている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		人員配置なども打ち合わせで意見を出し合いながら決め、チームで連携している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		児の課題だけでなく良かった点も共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		音声入力なども用いて効率的かつタイムリーに記録をとり、支援の検証・改善に活用している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年に一度を目途に行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4		多種多様な運動だけでなく調理などの生活行動の活動も取り入れ、日常生活の充実と自立支援にも取り組み、主体性も重視して取り組んでいる。また、地域施設との活動などを通して地域との交流も図っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		状況を整理し、選択肢を明確にして自己決定を促すなど、児の発達状態などを鑑みながらできるだけ主体的に自己決定できるよう努めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		基本的には児童発達支援管理責任者が担当者会等に出席することが多いが、児によってはより児の状況を把握している職員が出席することもある	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		相談支援事業所や学校などと情報共有しながら連携して支援にあたっている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		送迎時に先生と学校の様子を聞き、デイの様子を共有するなど行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		年齢が高い児が多いため保育所等との情報共有は少ないが、他の放デイ事業所と情報共有と相互理解には努めている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		引継ぎの会には出席して情報共有を行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		児童発達支援センターとの連携はまだとれていない。ケースによって、スーパーバイズを受けるよう努めているが、システムとしてこれから確立できればと考えている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		地域のイベントに参加して機会を取るよう心掛けている。	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4		参加するきっかけがなく、なかなか参加に踏み出せていません。困難ケースでも基本は相談支援専門員との連携で対応しています。	現状参加できていないが、今後ケースによっては自立支援協議会に参加したいと考えている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時に直接口頭でお伝えすることに加えて、HUGやLINEで活動の写真や動画を伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		今年度は交流会は行っていないが、ケースによって保護者への助言は行っている。	
の提供	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		面談の時などにお伝えしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		保護者との定期的なモニタリングや児と活動の現場において意思を聞くようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		主に児童発達支援管理責任者が説明し、同意を得るようにしている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		状況に応じて適切な助言を行うよう心掛けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会イベントのようなものは行っていないが、支援を通して保護者同士の交流を持てるよう支援することがあった。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情受付窓口の担当を設置し、保護者に周知もしている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		定期的に通信のお便りを発行したり、主にInstagramを活用して発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		専用の鍵付きの部屋に事業所ごとに保管、管理している	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		視覚支援や選択肢を明確化するなどの配慮を行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4			今年度は行うことができていないが、防災などをテーマに地域住民と一緒に活動できるイベントをしたいと考えている
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		特に防災は避難訓練も行い、被災時を想定した活動も行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを策定し、職員・お子様共に訓練を通して更新も行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		服薬等だけでなく児の行動やこだわりなどの状況も把握に努めている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		契約時にアレルギーの有無を確認・把握している。スタッフ内で共有し、除去や外食時はスタッフがアレルギー表を見て確認、対応を行っている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		定期的に訓練を行っている	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		モニタリング等で保護者の方に施設内の説明や緊急時の対応をお伝えしている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット報告書を作成し、法人内の各事業所とも共有を行っている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に訓練し、適切な対応を心掛けている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		契約時に説明し、必要に応じて保護者の同意のもと、行うようにしています。その際は個別支援計画にも記載しています。モニタリング等で保護者の方に確認、了承を得ている		